

日本 EU 学会 2020 年度研究大会@オンライン

企画委員会による主旨説明

共通テーマ：多極時代の EU と日本

2019 年 2 月、日本 EU 関係は新しい時代に入りました。日・EU 経済連携協定と戦略的パートナーシップ協定の発効であります。亜細亜大学で開催されます 2020 年度の研究大会では、このふたつの画期的な協定がもつ新時代への意義について、広くグローバルな視点から、本学会の強味でもある学際的なアプローチでもって、検討していきたいと考えております。21 世紀にはいつて 20 年、世界はリベラル国際秩序のゆらぎに直面しています。多国間でルールを決め、自由な貿易と投資を実現し、グローバルな繁栄と安定を実現していくはずのポスト冷戦の時代は、いまや権威主義的ポピュリズムによる先行き不透明な時代に突入し、大国間の対抗関係はますます激化していくのではないかと、不安視されております。TPP からのアメリカの離脱、EU とアメリカの TTIP の難航、イギリスの EU 離脱、アメリカと中国の関税戦争、WTO の機能不全といった国際ルールの後退もしくは創出の失敗が、いわゆるストロングマンの跋扈によりますます非合理的なナショナリズムの政治に息を吹き込んでいるかとも思われます。こうしたなか、日 EU の新たな協定は、リベラル国際秩序の防波堤とも位置づけられております。はたして、それはどのようなポテンシャルをもつものでありましょうか。いかなる政治的な意図のもとで、どのような法的意義を担い、どこまでの経済的インパクトをもちうるものでしょうか。本研究大会では、EU の戦略文書にも載せられた多極時代という概念に依拠しながら、1 名の海外招聘者とともに政治・法・経済それぞれより 1 名ずつの報告者をお招きし、これに日 EU 関係の実務にも携わったご経験をお持ちの 2 名の討論者にご登壇いただき、これからの日 EU 関係をグローバルな視野から見定めていく学術的な知見を求めていきたいと考えております。